

広報・教育部門

応募事例名

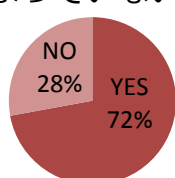
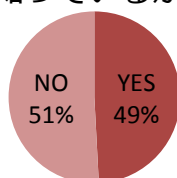
「災害時こまらんトイレ！」のPR活動

応募団体名)神戸市

応募事例の概要

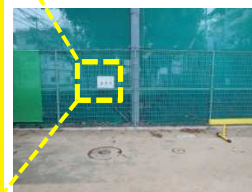
①平成28年度調査で問題が判明

使用方法を
知っているか 土砂等によって
埋まっていないか



- ・愛称の決定・ロゴの作成
- ・組立動画を市HP上のPRサイトやYouTubeに公開
- ・整備箇所付近に看板を設置

②PR活動への積極的な取り組み



PRサイト
QRコード

③設置訓練の推進 防災教育の実施



■PRポイント

神戸市では、阪神淡路大震災の教訓を受け、指定避難所である小・中学校を中心に、水洗で衛生的に利用できるマンホールトイレの整備を平成9年度～平成18年度にかけて進めてきました。しかし、設置から10年が経過した平成28年度に実施した調査の結果、備蓄管理者(学校教頭)の約半数が使用方法を把握していないなどの問題が明らかとなったため、平成29年度より、マンホールトイレ愛称の決定、利用マニュアルやPR動画、看板やシールの作成、配布などを下水道部職員が直接行い、費用をかけずにPR活動に取り組んでいます。また、地域の防災福祉コミュニティ等による「災害時こまらんトイレ！」の設置組立訓練に下水道部職員も参加し、防災教育の実施にも取り組んでいます。

これらの取組は、日本トイレ研究所「自治体のトイレ対策例」や国交省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」(2018年度版)にマンホールトイレの先進事例として紹介されています。

■具体的効果について

- ・訓練に参加した地域住民や、看板設置の際に現地を訪れて説明した学校教頭の好意的な反応のほか、下水道部職員の「災害時こまらんトイレ！」に対する認知度や広報意識の向上にも効果がありました。
- ・看板の設置により、整備箇所が明瞭になるほか、PCやスマートフォンがなくても不特定多数の避難者それぞれが整備箇所を一目で確認できるようになりました。看板にはPRサイトのQRコードを掲載し、広く一般に対してPRすることができます。